



## 大型ショッピングセンターの開業 (沖縄の購買力)

(7月のごあいさつ)  
2019年7月1日(月)

6月27日(木)ファッションをメインにした**パルコシティ**が開業した。

前日の大雨とはうって変わって、長い**梅雨の晴れ間**の太陽が輝き**幸いなスタート日**であった。開店に合わせた徹夜組を含む行列ができ、周辺道路は渋滞の極みであった。記事によると混雑時間帯に**安謝からパルコまで、車で1時間20分**を要したという。

県内最大を競うパルコシティと**イオンモールライカム**は、今後は「量」から「質」への競争へと変わって行くことが予想され、県内流通業界と消費者の動向にも大きな**変化の波が予想**される。

入居テナント数で、県内最大のパルコシティは、**沖縄本島全域**を商圈に取り込み、外国人観光客も対象にしている。県内小売業界の競争は**一層激化**し、**淘汰は一挙に進む**ものと思われる。生物学において、いかに小さい淘汰にせよその有利・不利の差により導かれる**選抜**は、次世代において**不適応な個体を排除**するという重大な選択を招く。また、来る7月11日には、コンビニ最大手の**セブンイレブンの開業**が控えている。県内流通業にとって、短期間に二重の打撃が待っている。

約4年前に、今回のパルコシティと同規模で開店した**イオンモールライカム**は、同様に**本島全域を商圈**としている。海を臨む広大な**旧米軍ゴルフ場跡**に建設されたショッピングモールは、他のビル状のモールとは異なり、施設が横に広がり**リゾートモール**と位置付けられ、**全国的にも成功例**とされている。

オープン当初のことではあるが、30数ヶ所の巨大イオンモールの中で、施設面積、集客数は全国4位前後、但し売上金額は10位に入っていないと聞いたことがある。これは、**沖縄県の購買力の姿**を現しており、人口(全国25位)、県民所得(1人当47位)、預金残高(1人当43位)からも納得できる。沖縄県(民)には、期待されるほどの購買力があるとは思われない。

確かに、ここ数年**県内の人口**の増加が続き、消費も堅調であり、**浦添西海岸の将来性**は高い。また、年々増加の傾向にある**外国人観光客**の需要も取り込み、従来の**経済基盤**を超えたものになることは確実である。しかし、全国的な人口減が進み、県内も**2025年には減少へ転じる**と言われている。

観光需要にも支えられた**流通業界**は、これまでも今後も、国内、国際情勢の変動にも左右されやすい**リスク**も持っている。明らかに県内流通業界は**飽和状態**となる中で、**沖縄経済の一つの「カケ」**ともいえる。多くの不確定要素をかかえ、**沖縄経済、特に流通業界は、「経済の崖」**を迎えるかもしれない。